

科目名	教育制度論					開講 キャンパス	神 園
担当者	赤 星 まゆみ						
開講年次	3	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必修（3、4年） 選択（1、2年）
授業の概要 及びねらい	現代公教育制度について、法的小および慣行的な制度としての特色を明らかにしつつ、歴史的・社会的・文化的背景を踏まえながら、最近の改革動向を考察する。とくに、学習権と子どもの権利条約の意義を問ひ、義務教育の重要性、地域との関係などの視点を重視する。また、学校教育に関する基本的な法規定の体系を学ぶ。						
授 業 の 到達目標	1. 学校とは何かについて複眼的な思考ができ、自分なりの考えをまとめることができる。 2. 公教育の原理について理解し、説明できる。 3. 公教育の発達と基本的人権の保障について関係づけて述べることができる。 4. 世界の学校教育改革に関する動向を、基礎学力の保障という観点から理解することができる。 5. インクルージョンについて、教育への権利の観点から説明することができる。 6. 日本の学校制度と改革動向について基本的な知識を身につける。 7. 生涯学習の重要性と学校教育の役割について具体的に考えることができる。 8. 日本の義務教育制度について理解し、その基本原則を説明することができる。 9. 日本の教育法規の構造を理解する。 10. 日本の教育法規の規定内容について具体的に理解し、説明することができる。 11. 日本の教育行政の原理を理解し、とくに教育委員会制度について説明できる。 12. 日本の教育制度の課題について自分なりの考えを述べることができる。						
学習方法	講義形式を中心とするが、視聴覚教材を援用し、部分的にグループワークや発表、小テストを取り入れる。また、レポート等の課題提出を求める。						
テキスト及 び参考書等	テキスト：『要説 教育制度』森秀夫著、学芸図書株式会社 参考書：『解説 教育六法』三省堂。その他、適宜紹介する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎					60
小テスト等	○	○					10
宿題・授業外レポート	◎	○	◎	○			30
授業態度			○				
受講者の発表	○	○	○				
授業への参加度			○				
その他	授業への積極的な参加は、評価の際、10%の範囲内で加点します。また、参加度が良くない場合は、評価の際、10%の範囲内で減点します。なお、出席が3分の2に満たない場合は成績評価を行いません。						
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	ガイダンス（授業の目的、内容、方法）—学校教育について（レポート作成）						
第 2 週	1 - 1 基本的人権と教育—子どもの権利条約と教育（1）— 世界の子どもと学校						
第 3 週	1 - 2 基本的人権と教育—子どもの権利条約と教育（2）— 教育への権利を考える						
第 4 週	1 - 3 基本的人権と教育—教育とインクルージョン（1）— スウェーデンの障がい児教育						
第 5 週	1 - 4 基本的人権と教育—教育とインクルージョン（2）— 特別支援教育						
第 6 週	1 - 5 基本的人権と教育—生涯学習：「教育を受ける権利」と「学習権」						
第 7 週	2 - 1 公教育の成立—学校教育の始まり						
第 8 週	2 - 2 公教育の展開—義務教育の充実と意義						
第 9 週	2 - 3 公教育の展開—義務教育制度の発達						
第 10 週	3 - 1 日本の学校教育制度（1）— 義務教育						
第 11 週	3 - 2 日本の学校教育制度（2）— 教育活動						
第 12 週	3 - 3 日本の学校教育制度（3）— 学校経営と学級経営						
第 13 週	4 地域と学校—教育行政の原理と教育委員会制度						
第 14 週	5 世界教育改革・幼児教育改革の動向						
第 15 週	まとめ・ふりかえり						
第 16 週	試験						
備 考	授業への積極的な参加としてノートの作成を重視する。また、事前学習及び学習課題等に関する記載をした詳細な授業計画は、授業開始時に配付する。						